

新たなパーソネルマネジメントの構築

平成28年5月23日
奈良県 総務部

- 中間報告については、官民共通である『日本人の働き方の本質的な研究と効率的な働き方』を共通の概念とする。
- 民間企業を中心とした働き方の分析と効率的な働き方の研究については、「ワークマネジメント」として産業・雇用振興部でとりまとめを行う。
- 公務員を中心とした人事・組織・働き方の研究については、「パーソネルマネジメント」として、総務部でとりまとめを行う。**
- それぞれのとりまとめを2部構成とし、中間報告として公表する。
- とりまとめた中間報告を活用し、国の労働関係機関や組織・人事に精通した実務経験者・学識者等とさらなる議論を深め、最終報告につなげる。

日本人の働き方の本質的な研究と効率的な働き方 ～広義のワークマネジメント～

研究のきっかけ

少子化・高齢化

●少子高齢化がそのまま進むと、本県の人口は、平成72年に84万人を割ると推計。

長時間労働

●長時間労働は、男性が家事・育児で一定の役割を担うことや、女性が結婚・出産ときに就業を継続することを困難にしている。

仕事と家庭の両立

●若者が仕事と家庭を両立しながら、いきいき働けるようにすることが、本県の喫緊の課題となっている。

研究の意義

「働いてよし」の奈良の実現

●官民ともに、効率的な働き方と有効な人材育成策を実施していかなくてはならない。

現状把握と仮説検証

●関係者や関係団体と現状認識の共有を図るとともに、市町村や民間各事業所における実情に応じた取組の具体策を検討

構成

産業・雇用振興部でとりまとめ

第1部

民間企業を中心とした働き方の分析と
効率的な働き方の研究
～県内事業所におけるワークマネジメント～

総務部でとりまとめ

第2部

公務員を中心とした人事・組織・働き方の研究
～新たなパーソネルマネジメントの構築～